九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# [0021]九州大学生体防御医学研究所年報 : 2006年

https://doi.org/10.15017/15429

出版情報：九州大学生体防御医学研究所年報. 21, 2007-05. Medical Institute of Bioregulation, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

# 平成１８年度（2006／2007 年）の研究活動の概況

生体防御医学研究所・所長
吉開泰信
（よしかいやすのぶ）

生体防御医学研究所では、生体の恒常性を維持している「生体防御」研究というユニークな研究課題のもとに生命現象の本質に迫る基礎研究を展開すると共に、生体防御機構の破綻による難治性疾患の発生機序の解明と診断、治療法の確立を目指した研究を展開し国際的にも高い評価を受けて参りました。平成１８年度の主な活動状況は以下の通りです。

1. 医学・生命科学領域におけるポストゲノムの先端的研究を積極的に推進して Science などのトップジャーナルに研究成果を発表した。
2. 競争的資金を獲得し、生医研独自の Research Assistant 制度を確立して、大学院生を経済的に支援することによってシステム生命科学府、医学系学府における大学院教育を充実させた。
3. 若手研究者自立的研究環境整備促進事業「生体防御におけるポストゲノムサイエンス」では SSP（特任助教授）を外部からの採用し、独自の研究スペースと生医研運営費交付金から独自の研究資金を与え、自立して独創的な研究を推進する環境を提供した。
4. 異分野での研究の進歩に通じることにより、有意義な研究テーマを見出す能力を養うため、平成１８年１１月１８・１９日、湯布院で第９回リトリートを開催して、ベスト口演賞、ベストポスター賞の選出をおこなった。
5. 世界の先端的研究動向についての情報を吸収するため国際シンポジウムを平成１８年１２月１５・１６日に The development, function and pathology of the nervous system from *C. elegans*, fly to human のテーマで開催した。
6. 先端的研究方法、最新知識を体得するために、国内外から第一線の研究者を招聘して生医研セミナー（第４６４回から第４８０回）を実施した。

平成１８年度の国立大学法人に対する予算、並びに九大の方針に従い、平成１９年度から「５年間５％以上の人件費削減」と移転費用など九大独自の財政上の問題によるさらなる人件費凍結が現実のものとなります。教員ポストの大幅な削減は附置研究所にとりましては、文字通り死活問題に繋がります。質の高い基礎研究の成果の情報を発信し続けることはもちろんのこと、社会貢献・国際貢献に関する活動を社会に対して目に見える形で示すことが、ますます重要となってきます。これらの課題に適切に対応するために今後とも所員一同、より一層の努力を行う所存であります。何卒、生医研の今後の発展のために厳しい御批判、御鞭撻とともに御支援賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成１９年4月２５日